

学生献血推進ボランティアからのメッセージ

特に若い方に対して、献血の大切さを伝え協力してもらうために積極的に活動を行っている「学生献血推進ボランティア」の方に、献血の大切さを聞きました。



あなたは「献血」と聞いて何を浮かべますか？

「困っている人を助ける」、「記念品が貰える」などのプラスイメージを浮かべる人もいれば、「注射が怖い・痛い」、「貧血になりそう」などのマイナスイメージを浮かべる人もいるでしょう。大半はマイナスの方が多いのではないのでしょうか。

「献血」は命を救う身近なボランティアです。近くに献血ルームがあったり、献血バスを見かけたりした場合は、マイナスイメージに臆することなく1度足を運んでみてください。



平成30年度全国学生献血推進実行委員会
委員長
西山 翔太さん

40分、これは一回の全血献血にかかる時間の目安です。皆さんが普段受けている授業よりも短いと思います。40分間で、病気に苦しんでいる誰かの力になれると考えると自分も強くなれるような気がしませんか？

高校生でも16歳以上なら献血できます。この瞬間も輸血を必要とする患者さんは多くいらっしゃいます。皆さんのご協力をお待ちしています。



平成30年度全国学生献血推進実行委員会
副委員長
太田 智輝 さん

私は先天性の病気の手術中、大量出血で輸血を受けました。輸血を受けた時の記憶はありませんが、術後、両親から手術の話をした時に輸血のことも聞きました。両親も、「まさか自分の娘が輸血を受けるとは」と言っていました。

大量出血をした時、私は「輸血」で助けられました。もしあの時、輸血が無ければ、今、元気に大学に通うことができなかったかもしれません。

あなたは「輸血」がどんな時に必要だと思いますか？

手術中や怪我の大量出血でも必要ですが、ほとんどが病気の治療に使われます。今もなお、「輸血」が必要な患者さんが沢山いらっしゃいます。突然、あなたの大切な人に「輸血」が必要になるかもしれません。

私は輸血経験者の1人、また大学生の1人として神奈川県学生献血推進連盟に所属し、献血の推進活動をしています。

高校生でも16歳以上なら献血にご協力いただけます。あなたの少しの勇気で助かる命があります。命を救う、身近なボランティア「献血」。ご協力をお願いします。



神奈川県学生献血推進連盟
稲村 はづき さん

